環境保全活動支援マップ「水とわたしたちのくらし」の作成

小倉久子　石井　晧　伊藤章夫[1)]　湯下健一[2)]
(1:元環境研究センター　2:県民生活課)

1　はじめに

首都圏に位置する千葉県は，他の都県と同様に人口集中による環境悪化が進んでいるが，その軽減，再生のためには従来の規制行政のみでは限界があり，環境保全・再生のために市民の自発的な行動が求められている。

当センターでは平成 13 年度から設置された企画情報室を中心にして，研究成果をわかりやすい形で市民に還元するために，市民に対する啓発・環境学習業務を行っている。平成 13 年度には，県環境生活部環境生活課（現 環境政策課）の環境保全活動支援資材製作事業に共同で参画し，「海老川マップ」を製作したので，作成の経過，マップの内容等について紹介する。

環境保全活動支援資材をマップ形式としたのは，解説書の多くが書棚に格納されてしまうのに比べて，啓発マップは幅広い年代層に気軽に使ってもらえることを期待したからである。製作にあたっては，環境 NGO，行政（県，市，環境，土木の各部門）及び研究機関がパートナーシップを組んで行うことができたため，内容もさることながら，製作活動自体が非常に意義深い経験となった。ここでは，このマップの製作過程を紹介する。

2　マップ作成の経過

2・1　作成委員会

マップの作成のためにまず委員会を立ち上げ，委員会は以下のメンバーで構成した。後述のように，マップのモデルとして千葉県船橋市を流れる「海老川」を選定したので，地元 NGO としては船橋市在住の NGO を中心に選定した。水環境及び環境学習についての専門家としては県環境研究センター職員が入り，行政からは地元船橋市の環境保全課，海老川の管理者として現場に詳しい県葛南土木事務所が作成委員となり，事務局は千葉県環境生活部環境生活課が務めた。

また，イラストレーターとして 1 名はプロ，もう 1 名は作成委員（環境 NGO）の一人でもある都市計画を学んでいる大学生を選び，ともに現場を十分実際に歩いた後に製作にあたった。マップに描きこむ内容は，各委員がそれぞれ対等な立場で海老川についての思いを述べ合い，それをイラストレーターがマップに配置した。

なお，本マップはイラストではあるが，できるだけ正確な描写を心がけ，船橋市歴史編纂室に時代考証を，千葉県立中央博物館には生物についての監修をお願いした。

2・2　使用対象者とテーマの設定

マップの使用対象は，小学校高学年を想定した。ただし，説明文をつけないでイラストで表現するため，もっと低い学年でもそれなりに読み取れるように，さらに，一般市民もマップを見て楽しみ，考えることができるように工夫した。

マップに表したいテーマとしては，子供たちや市民にとって最も身近であり重要だと考えられる水辺，特に水循環で蔑ろにされやすい「湿地」を組み込んだ水環境を取り上げることとした。

2・3　モデル流域の設定

マップに表す場所（水域）は，船橋市を流れる海老川及びその河口前面に広がる三番瀬とした。

船橋市は東京のベッドタウンとして開発が進んでいる都市である。海老川は源流部から河口まで流域のほとんどが船橋市内で完結している河川で，中下流部は典型的な都市型河川と言える。上流域には大規模団地がいくつも造成され，田畑が休耕田や荒地となっており，産業廃棄物の不法投棄，野焼きが行われているところもある。しかしながら，上流部の一部には現在も谷津田や河畔林などが残っており，市民の森として保全されている地域もある。また，下流部は川沿いに遊歩道が作られ，橋にも一つ一つ工夫が凝らされている。

さらに，海老川河口前面に広がる三番瀬は東京

湾に残されている貴重な干潟・浅海域であり，水循環・水環境を考える上で欠かすことのできない水域である。

このように，海老川及び三番瀬は，良い点だけでなく考え直すべき点も含めて，多数の要素を持ち合わせているため，汎用性という視点からも水環境を考えるためのモデル流域としてふさわしいと考えた。

2・4　内容，時代

当初は，現代の「水とかかわる暮らし」についてのみをイラストで描き表す計画であったが，現地踏査の際に地元のお年寄りから昔の海老川の様子を聞かせていただいたところ，それは現在の私たちの暮らし方をふり返る意味で，非常に示唆に富む貴重な情報であったので，「現在の暮らし」の裏面に「むかしの暮らし」を同様にイラストで表すこととした。

「むかし」の設定は昭和初期とし，表面の「いま」のマップとほぼ同じ縮尺で描き表わし，２つの時代を対比しやすいように工夫した。「むかし」の自然や生きものと人間との関りの描写には，歴史の記録とともに，将来こうありたいという思いも込めた。

「いま」のマップには，よりよい水環境のために行われている「良いこと」だけでなく，「いけないこと」も随所に配置し，自由に読みとって，考えを深めていけるように配慮した。これは絵本「ウォーリーを探せ」からヒントを得たスタイルで，自分たちの生活と似た人物をマップの中から見つけ出すという作業は，環境とその保全活動を見つめるという機会を十分に与えると考えたのである。

3　「水とわたしたちの暮らし　ー海老川・三番瀬ー」

マップは「水とわたしたちのくらし」というタイトルで，Ａ１判で作成した。表面は**図１**に示すように現代の海老川とくらしをコンピューターグラフィック調で描き，裏面の「むかし編」はモノクロ調の手書きで作成した（**図２**）。

画調のまったく異なる２名のイラストレーターを選んだことで，「いま」と「むかし」の違いを非常に鮮明に出すことができたのは，予想外の収穫であった。

作業は，立案の段階から地元の船橋市及び NGO との協働で進めたことによって，地域をより綿密に調査し情報を収集することができた。その結果，特に「むかし」版の中に豊富な情報を入れ込むことができた。

4　マップの活用について

完成したマップは，現在は海老川と三番瀬の地元である船橋市及び浦安市の小学校において，それぞれの地元環境 NGO が総合的な学習の授業を行うときに使用したり，NGO の活動発表の場で紹介している。今後は，海老川流域以外の地域にも，各市町の教育委員会等を通して小中学校等に広めていく計画である。

なお，若い教師などで「むかし編」に描かれていることが子供たちに説明できないという声もあることから，「むかし編」については解説集を作成する。

本マップは，決められた使い方をするというよりも，いろいろな学び方を子供たちや教師に自由に見つけてもらうことを期待している。平成 14 年度には，本マップの活用事例集を作成することとしているが，それにはこだわらず，さまざまな活用方法が生み出されることを期待したい。

謝　辞

本マップの作成委員は下記のとおりで，それぞれの所属で所有する資料の提供もご協力いただきました。千葉県立中央博物館の望月賢二副館長はじめ研究員の先生方，船橋市市史編纂室綿貫啓一室長など，大変多くの皆様にご指導をいただきました。ここに，厚くお礼申し上げます。

水環境マップ作成委員会名簿

市民：大西優子，平松　南，渡辺正樹

行政：高畠史子，斉藤美和，

研究者：石井　晧，伊藤章夫，小倉久子

事務局：湯下健一

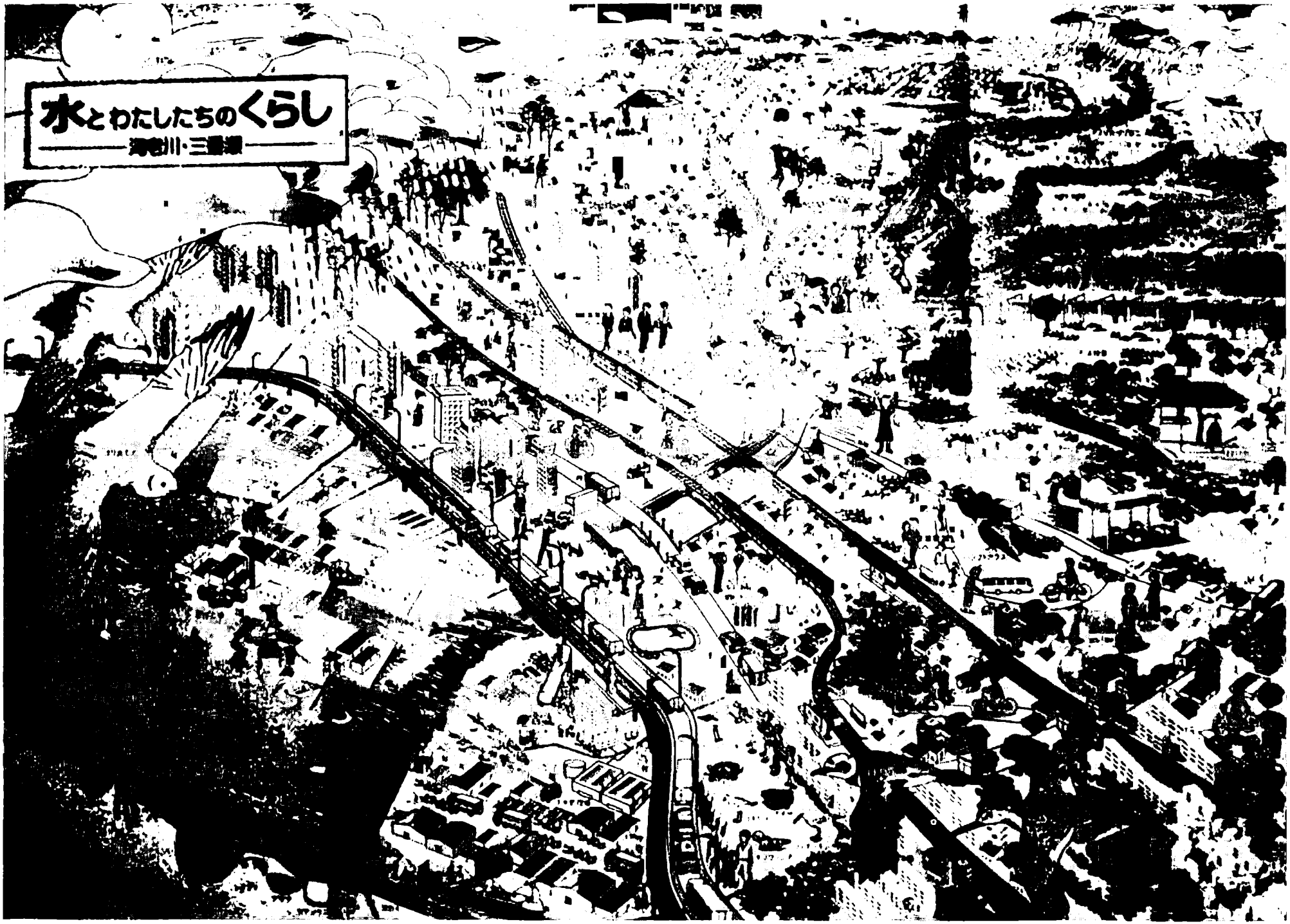

図1　水とわたしたちのくらし　—海老川・三番瀬—　（現在）

図2　水とわたしたちのくらし　—海老川・三番瀬—　（昔）